

大会長挨拶



第20回 日本シーティング・シンポジウム

大会長 岩谷 清一

(TOWN 訪問診療所、作業療法士)

この度、第20回日本シーティング・シンポジウムを、2025年11月23日(日)・24日(月・祝)の2日間にわたり、八王子市学園都市センターにて開催いたします。節目となる今回の開催にあたり、私たちは新たな挑戦と未来へのつながりを意識し、「Challenge! 暮らしを彩るシーティング～未来へ紡ぐコラボレーション～」をテーマに掲げました。

私はこれまで約20年にわたり、日本シーティング・コンサルタント協会でシーティングの普及と発展に携わってきました。“いつでも・どこでも・誰でも”安心してシーティングの知識や支援につながれる社会の実現を目指し、地道な取り組みを続けてきました。その活動を支えてきたのは、車椅子ユーザーが適切な座位姿勢を得ることで「楽に座れるようになった」「やりたいことができた」という瞬間に立ち会い、その喜びをご利用者・ご家族・支援者と共感し合えた経験です。もちろん、順風満帆だったわけではありません。壁にぶつかることもありましたが、相談できる先輩や仲間が存在が、チャレンジを続ける大きな力となりました。

シーティングは、単に姿勢を整える技術にとどまらず、暮らしを支える基盤であり、人の生活に彩を添える支援技術です。そしてその実践は、一人の力や一つの専門職だけでは成し遂げられません。ご利用者・ご家族・支援者が共通の目標を持ち、信頼関係を築きながら、多職種がそれぞれの専門性を活かして協力することが不可欠です。そうした協働の積み重ねによってこそ、“暮らしを彩るシーティング”という共同作品が紡がれていくのだと、私は確信しています。

当協会ではこれまで、医療・福祉・生活支援など多様な分野において、シーティングの重要性を広く伝え、実践と知識の普及に力を注いできました。特に近年では、地域包括ケア、在宅療養、リハビリテーション医療、重度障害児者支援、高齢者福祉といった現場において、「適切な座位支援」が利用者の暮らしやQOLに与える影響が、かつてないほど注目されてきています。一方で、現場では支援者の知識・技術のバラつき、用具選定や調整の難しさ、多職種間での連携不足といった、さまざまな課題にも直面しています。今こそ私たちは、こうした現状に向き合い、新たな“Challenge”に踏み出す時を迎えているのです。

そこで本シンポジウムでは、シーティングに欠かせない「移動」「移乗」「褥瘡」に焦点を当て、さらにその普及と発展に欠かせない「教育のあり方」についても議論を深めます。各分野で先駆的に取り組まれている講師陣をお招きし、初学者からベテランまで楽しく、そして深く学べるプログラムをご用意しました。

今回の開催地である東京都八王子市は、豊かな自然と都市機能が調和した、教育・文化・福祉分野の活動が盛ん

な地域です。多様な人々が集い、互いに学び合い、未来への一歩を踏み出す場として、最適なロケーションであると考えています。シーティングに関心のある皆様、多職種で実践に携わる皆様、そして市民の皆様。どうぞこの機会にご参加いただき、共感と協力のもと、“暮らしを彩るシーティング”という共同作品をともに紡いでいきましょう。そして、多職種のコラボレーションの力を活かして、誰もが“その人らしい生活”を送ることができる未来を、ともに切り拓いていけることを願っています。皆さまのご参加と、豊かな出会いと学びの時間を心よりお待ちしております。